

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第23週 （6月4日～6月10日）

★お知らせ

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第22週の5.33から第23週には4.50と横ばいです。県全域から報告があり、中央東、高知市、安芸で減少していますが、須崎、幡多では急増しています。

基幹定点からは感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が1例報告されています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス6例、細菌のカンピロバクター属菌や病原性大腸菌を原因とする胃腸炎10例の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「感染性胃腸炎」として第21週に高知市から搬入された検体から Adenovirus 41 が1例、第22週に高知市から搬入された検体から Adenovirus 41 が1例、須崎から搬入された検体から Adenovirus 2 が1例検出されています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも10例の報告があることから引き続き注意が必要です。

高温多湿な季節となりました。細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。また、ノロウイルス性胃腸炎は、通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあることから注意が必要です。

<予防方法> 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○夏型感染症（咽頭結膜熱（プール熱）・手足口病・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

例年、6月頃から報告数が増えはじめ7月頃にピークを迎える夏型感染症の報告が、散発的に見られるようになりましたので、注意しましょう。

手足口病の定点医療機関当たりの報告数は、第22週の0.67から第23週には0.87と2週連続で増加しています。須崎で急増、高知市で増加しています。

病原体検出情報では第21週に高知市から搬入された検体から Enterovirus 71 が1例検出されています。

また、咽頭結膜熱の定点医療機関当たりの報告数は、第22週の0.70から第23週は0.63と横ばいです。県全域から報告があり、幡多で急減、須崎で減少していますが、中央東、安芸、中央西では急増し、須崎では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルスによる感染症9例の報告があります。

病原体検出情報では第21週に幡多から搬入された検体から Adenovirus 2 が1例検出されています。

<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○百日咳に気を付けて！

第23週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から4例報告されました。2018年にはいつて高知県内の百日咳の届出は合計108例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。そのため、比較的軽い症状の患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

<予防方法> 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさけ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf

○麻しん（はしか）にご注意下さい！

2018年3月20日に麻しん患者が報告されて以降、沖縄県内で麻しん患者の発生が続いていましたが、5月11日に医療機関を受診された患者を最後に4週間新たな患者が発生していないことから、沖縄県は6月11日に、沖縄県における麻しん流行の終息を宣言しました。しかし、6月に入ってから福岡県及び愛知県で麻しん患者発生が報告されていることから引き続き注意が必要です。

県民の皆様にお願い

- 1、麻しんは予防接種により感染リスクが少なくなる疾患です。定期接種の対象者（1歳児、年長児）は接種対象期間中にかかりつけ医に相談し、2回接種を受けることが重要です。
- 2、麻しんを疑う症状（発熱、咳、鼻汁、その後発疹等）があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い受診し、周囲に感染を拡げないようにご注意ください。

各医療機関の皆様にお願い

- 1、発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻しんの可能性も考慮し、渡航歴・旅行歴・麻しん含有ワクチンの接種歴・麻しん罹患歴を確認するとともに、感染拡大予防策の徹底をお願い致します。
- 2、麻しん（疑い例を含む）診断時には管轄の保健所又は福祉保健所までご連絡をお願い致します。
- 3、職員への予防接種の推奨をお願い致します。

医療関係者、児童福祉施設等の職員、学校等の職員等は、幼児、児童、体力の弱い者等麻しんに罹患すると重症化しやすい者と接する機会が多く、本人が麻しんを発症すると、多数の者に感染を引き起こしてしまう可能性が高いため、予防接種の推奨を行う必要があります。罹患歴や予防接種歴を確認していただき、風しん・麻しん（MR）ワクチン接種の考え方を参照し、予防接種を十分検討して下さい。

（平成30年5月16日厚生労働省健康局結核感染症課長通知 麻しんの予防接種の推奨の周知について（協力依頼）より抜粋）

<麻しんについて>

麻しんは空気感染する感染力の強いウイルス感染症です。

潜伏期間は10～12日間で、咳、鼻水、くしゃみ等の風邪様症状が出現、2～4日ほど続きます。その後、39度を超える高熱と発疹が出現します。発疹の出現する1日から2日前には頬の粘膜（口の中の頬の裏側）にやや隆起した1mm程度の白色の小さな斑点（コプリック斑）が出現します。合併症を引き起こさなければ、7～10日後には回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹りやすく、また、体力等が戻ってくるには1ヶ月程度を要することもあります。

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

風しん・麻しん（MR）ワクチン接種の考え方

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/MRvaccine_20180417.pdf

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

咳エチケット

- ★ 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ★ 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ★ 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ★ 咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意

第 23 週に日本紅斑熱の発生届けが安芸福祉保健所から 1 例、
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の発生届けが高知市保健所から 1 例ありました。

日本紅斑熱や SFTS (重症熱性血小板減少症候群) は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型 (吸血前で 3~4mm) のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります (全てのマダニが病原体を持っているわけではありません)。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤 (有効成分：ディートあるいはイカリジン) を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5~10%	防除用 医薬部外品	1~2時間	6ヶ月未満児 には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製 剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	~6時間		
	高濃度製 剤 15%	防除用 医薬品	6~8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

野山に入ってからしばらくして (数日~数週間程度) 発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと (ダニに咬まれたこと) を申し出て下さい。

SFTS はマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTS ウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液から SFTS ウイルスが検出されています。このことは、SFTS ウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTS ウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に関する Q&A (厚生労働省)
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

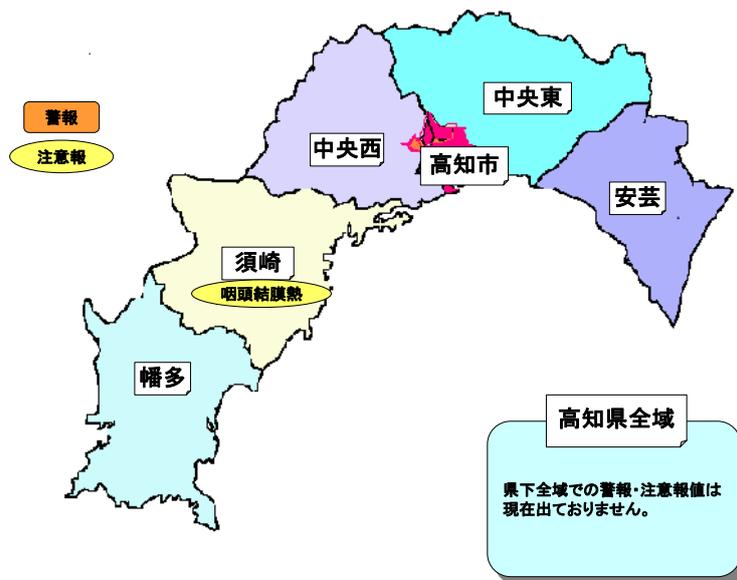
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増 ↗ : 増加 → : 横ばい ↓ : 減少 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	4.50	中央東、高知市、安芸で減少していますが、須崎、幡多で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	1.43	中央東、中央西、安芸で急減、県全域、須崎、高知市で減少しています。
手足口病	↗	0.87	須崎で急増、県全域、高知市で増加しています。
咽頭結膜熱	→	0.63	幡多で急減、須崎で減少していますが、中央東、安芸、中央西で急増し、須崎では注意報値を超えています。
突発性発疹	↓	0.43	須崎、安芸、幡多で急減、県全域、高知市で減少しています。

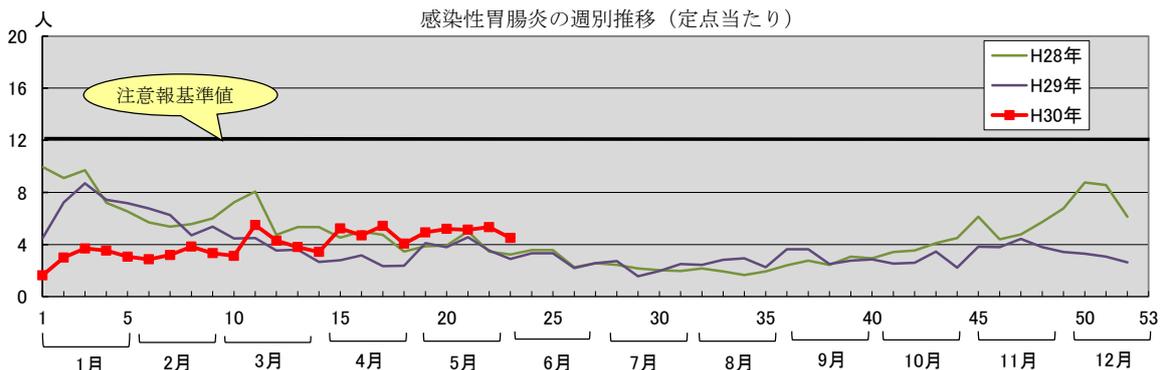
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

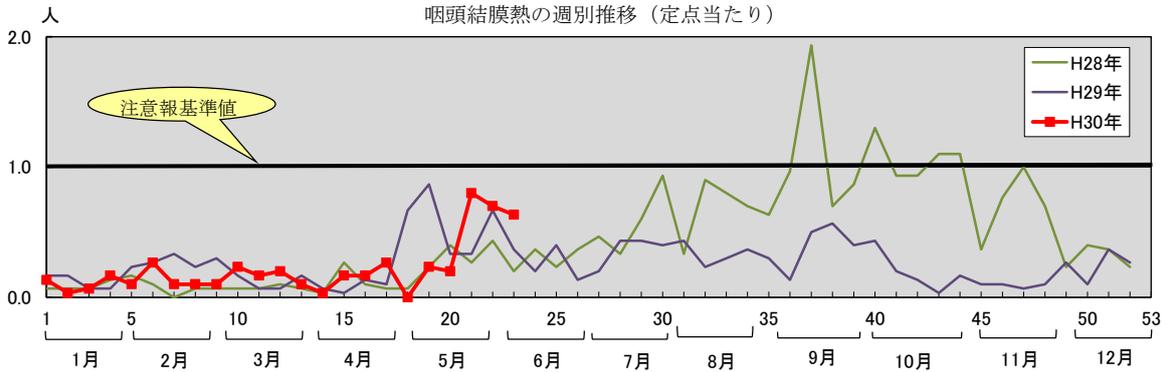
○感染性胃腸炎 第23週：4.50（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり4.50（前週：5.33）と横ばいです。中央東7.00（前週：8.86）高知市4.36（前週：6.55）安芸3.00（前週：4.50）で減少していますが、須崎4.50（前週：0.50）幡多2.80（前週：1.20）で急増しています。



○咽頭結膜熱 第23週：0.63 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.63(前週：0.70)と横ばいです。幡多0.40(前週：1.60)で急減、須崎1.50(前週：2.50)で減少していますが、中央東0.57(前週：0.00)安芸0.50(前週：0.00)中央西0.33(前週：0.00)で急増し、須崎では注意報値を超えています。



★病原体検出情報

前週以前に検出

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
19	下気道炎	38℃,下気道炎,	1	女	幡多	Rhinovirus
21	不明熱	40℃,	1	女	須崎	Adenovirus 1
21	咽頭結膜炎	40℃,	1	男	幡多	Adenovirus 2
21	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,嘔気,腹痛,	8ヶ月	男	高知市	Adenovirus 41
21	手足口病	38℃,発疹,口内炎,	2	男	高知市	Enterovirus 71
22	—	40℃,咳嗽,	1	男	高知市	Adenovirus 2
22	—	40℃,咳嗽,	1	男	中央東	Adenovirus 2
22	感染性胃腸炎	37℃,嘔吐,嘔気,	1	女	須崎	Adenovirus 2
22	感染性胃腸炎	-	1	女	高知市	Adenovirus 41
22	肺炎	40℃,肺炎,	1	女	幡多	Human metapneumovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	51	70歳代 女	幡多
		1		90歳代 女	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1	5	80歳代 男	高知市
	日本紅斑熱	1	6	60歳代 男	安芸
5類	百日咳	1	108	5~9歳 男	須崎
		1		5~9歳 女	
		1		5~9歳 女	
		1		30歳代 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (3 歳女)
中央東	野市中央病院小児科	病原性大腸菌 O-1 腸炎 (ペロ毒素陰性) 1 例 (9 歳男)
高知市	高知医療センター小児科	アデノウイルス 2 例 (1 歳男、1 歳女)
	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター＋病原性大腸菌 O-115 腸炎 1 例 (9 歳) カンピロバクター＋病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (13 歳) カンピロバクター＋病原性大腸菌 O-20 腸炎 1 例 (7 歳) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 2 例 (4 歳 2 人) アデノウイルス咽頭炎 4 例 (1 歳 4 人) ノロウイルス腸炎 1 例 (2 歳)
	細木病院小児科	ノロウイルス 3 例 (6 ヶ月男、8 ヶ月女、1 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 6 例 アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳男) 手足口病と突発性発疹の合併 1 例 (1 歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 2 例 (7 歳女：仁淀川町、18 歳女：仁淀川町)
須崎	もりはた小児科	百日咳 3 例 (7 歳、9 歳、31 歳) ノロウイルス陽性 2 例 22w カンピロバクター腸炎 1 例 (10 歳女)
幡多	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 2 例 (2 歳男 2 人)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (4 歳女)

★全国情報

第21号 (5月21日～5月27日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核309例
- 3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症89例
- 4類感染症：E型肝炎8例、A型肝炎26例、エキノコックス症1例、重症熱性血小板減少症候群5例
つつが虫病7例、デング熱3例、日本紅斑熱7例、マラリア2例、レジオネラ症47例
- 5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症20例
急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎6例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群10例、ジアルジア症3例
侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性肺炎球菌感染症55例、
水痘 (入院例に限る) 5例、梅毒75例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳131例、風しん4例、麻しん1例
- 削除予定：腸管出血性大腸菌感染症1例、麻しん2例
- 報告遅れ：細菌性赤痢1例、つつが虫病1例、日本紅斑熱5例、レジオネラ症12例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症10例、急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎6例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症2例
水痘 (入院例に限る) 1例、梅毒65例、播種性クリプトコックス症3例
バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳51例、風しん6例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第23週 平成30年6月4日(月)～平成30年6月10日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第23週							計	前週	全国(22週)	高知県(23週末累計)		全国(22週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/6/10				H30/1/1～H30/6/3			
インフルエンザ	インフルエンザ				1				1 (0.02)	5 (0.10)	932 (0.19)	20,861 (434.60)	1,756,602 (355.30)			
小児科	咽頭結核熱		1	4	8	1	3	2	19 (0.63)	21 (0.70)	2,628 (0.83)	149 (4.97)	26,279 (8.32)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4	26	1	5	7	43 (1.43)	72 (2.40)	9,854 (3.12)	1,010 (33.67)	169,479 (53.68)			
	感染性胃腸炎		6	49	48	9	9	14	135 (4.50)	160 (5.33)	22,929 (7.26)	2,786 (92.87)	369,961 (117.19)			
	水痘		1	1	6			1	9 (0.30)	11 (0.37)	2,165 (0.69)	121 (4.03)	23,260 (7.37)			
	手足口病			4	18			2	26 (0.87)	20 (0.67)	3,020 (0.96)	254 (8.47)	19,633 (6.22)			
	伝染性紅斑			2		1			3 (0.10)	5 (0.17)	704 (0.22)	31 (1.03)	6,978 (2.21)			
	突発性発疹			5	6	1	1		13 (0.43)	20 (0.67)	1,835 (0.58)	230 (7.67)	28,699 (9.09)			
	ヘルパンギーナ				2			1	3 (0.10)	(0.00)	570 (0.18)	15 (0.50)	2,501 (0.79)			
	流行性耳下腺炎				1				1 (0.03)	5 (0.17)	589 (0.19)	25 (0.83)	10,438 (3.31)			
RSウイルス感染症								(0.00)	1 (0.03)	911 (0.29)	188 (6.27)	26,181 (8.29)				
眼科	急性出血性結膜炎								(0.00)	(0.00)	17 (0.02)	(0.00)	307 (0.44)			
	流行性角結膜炎								(0.00)	2 (0.67)	765 (1.09)	16 (5.33)	11,089 (15.91)			
基幹	細菌性髄膜炎								()	(0.00)	13 (0.03)	2 (0.25)	206 (0.43)			
	無菌性髄膜炎								()	(0.00)	9 (0.02)	1 (0.13)	240 (0.50)			
	マイコプラズマ肺炎			2					2 (0.25)	2 (0.25)	68 (0.14)	39 (4.88)	1,667 (3.48)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	(0.00)	2 (0.00)	12 (1.50)	81 (0.17)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							1	1 (0.13)	2 (0.25)	103 (0.22)	25 (3.13)	2,815 (5.88)			
計(小児科定点当たり人数)	8 (4.00)	69 (9.85)	117 (10.46)	14 (4.52)	20 (10.00)	28 (5.40)	256 (8.41)			47,114	25,765 (594.91)	2,456,416				
前週(小児科定点当たり人数)	11 (5.50)	87 (12.42)	160 (14.00)	19 (6.06)	19 (9.50)	30 (5.80)		326 (10.61)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第23週							計	前週	全国(22週)	高知県(23週末累計)		全国(22週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/6/10				H30/1/1～H30/6/3			
インフルエンザ	インフルエンザ				0.20				0.02	0.10	0.19	434.60	355.30			
小児科	咽頭結核熱		0.50	0.57	0.73	0.33	1.50	0.40	0.63	0.70	0.83	4.97	8.32			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.57	2.36	0.33	2.50	1.40	1.43	2.40	3.12	33.67	53.68			
	感染性胃腸炎		3.00	7.00	4.36	3.00	4.50	2.80	4.50	5.33	7.26	92.87	117.19			
	水痘		0.50	0.14	0.55			0.20	0.30	0.37	0.69	4.03	7.37			
	手足口病			0.57	1.64			1.00	0.40	0.87	0.96	8.47	6.22			
	伝染性紅斑			0.29		0.33			0.10	0.17	0.22	1.03	2.21			
	突発性発疹			0.71	0.55	0.33	0.50		0.43	0.67	0.58	7.67	9.09			
	ヘルパンギーナ				0.18			0.20	0.10	0.00	0.18	0.50	0.79			
	流行性耳下腺炎				0.09				0.03	0.17	0.19	0.83	3.31			
RSウイルス感染症								0.00	0.03	0.29	6.27	8.29				
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	0.00	0.02	0.00	0.44			
	流行性角結膜炎								0.00	0.67	1.09	5.33	15.91			
基幹	細菌性髄膜炎								0.00	0.00	0.03	0.25	0.43			
	無菌性髄膜炎								0.00	0.00	0.02	0.13	0.50			
	マイコプラズマ肺炎			0.40					0.25	0.25	0.14	4.88	3.48			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.00	0.00		1.50	0.17			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							1.00	0.13	0.25	0.22	3.13	5.88			
計(小児科定点当たり人数)	4.00	9.85	10.46	4.52	10.00	5.40	8.41				594.91					
前週(小児科定点当たり人数)	5.50	12.42	14.00	6.06	9.50	5.80		10.61								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年6月11日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。